

# 令和五年度 後期日程 公共政策学部

## 小論文問題

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答用紙すべてに、受験番号・氏名を必ず記入すること。  
受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 4 この冊子は、問題用紙（一五頁）・解答用紙（三枚）からなっている。
- 5 落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 6 解答は、解答用紙の指定された箇所に、縦書きで記入すること。
- 7 解答作成の際、句読点・カッコは、字数に含めること。
- 8 試験開始後六〇分を経過しないと、退室できない。また、試験終了前一〇分間は退室できない。退室するときは、手を挙げて申し出た上で、試験監督者の指示に従うこと。なお、解答用紙は机上に置き、その上に試験監督者が配付する用紙を重ねること。問題冊子は持ち帰ること。

令和五年度 後期日程 公共政策学部

小論文 補足説明

問題番号 二

補足説明

図3および図4の回答者は、図2と同様である。

— 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(出典) ローレンス・J・シュナイダーマン、ナンシー・S・ジェツカー(林令奈・赤林朗 監訳)  
『間違った医療 医学的無益性とは何か』勁草書房、二〇二一年。ただし、出題の都合上、原文を一部改変した。

問一 「防衛医療」とはなにか、簡潔に説明しなさい。(二〇〇字以内)

〔二〇点〕

問二 「防衛医療」の是非について、その背景も踏まえた上であなたの考えを述べなさい。

(六〇〇字以内)

〔二〇〇点〕

(余  
白)

二 次の表1及び図1～4から読み取れる日本における業種別労働生産性指数及びICT（情報通信技術）投資額の推移の特徴と、デジタル・トランスフォーメーションの課題について述べなさい。なお、ここでいうデジタル・トランスフォーメーションとは、デジタル技術を活用して、業務の改善やビジネスモデルの創出、さらには企業風土の変革を実現していくことと定義します。

（八〇〇字以内）

〔二三〇点〕



表1 業種別の労働生産性指数の推移

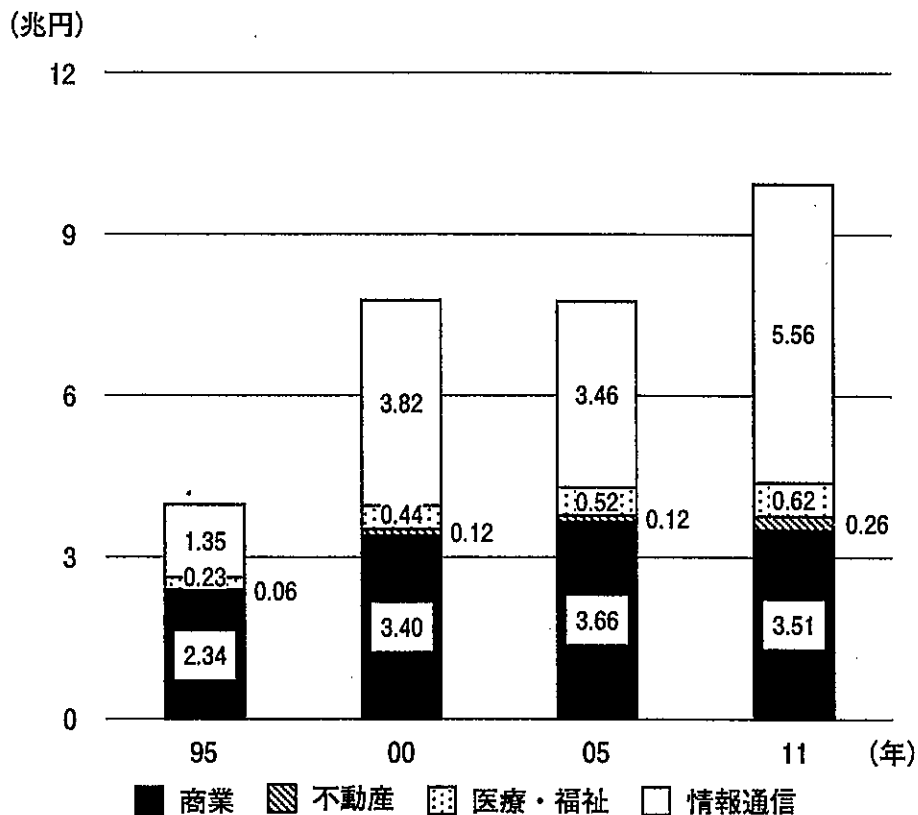
(単位：2000年＝100)

	2000年	2005年	2010年	2015年	2019年
商業	100.0	128.9	110.4	118.6	102.8
不動産	100.0	118.4	88.0	84.1	81.0
医療・福祉	100.0	91.3	96.4	92.3	88.0
情報通信産業	100.0	135.0	154.1	172.7	185.6

注1：数値は、日本の2000～2019年における情報通信産業と一般産業の労働生産性（実質GDP／雇用者数）（2015年価格）の推移を指数（2000年＝100）として示したもの。

注2：GDPとは国内総生産の略称で一定期間内に国内で生産されたモノやサービス等の付加価値の合計額を示す。実質GDPとはGDPの値から物価変動の影響を取り除いたもの。

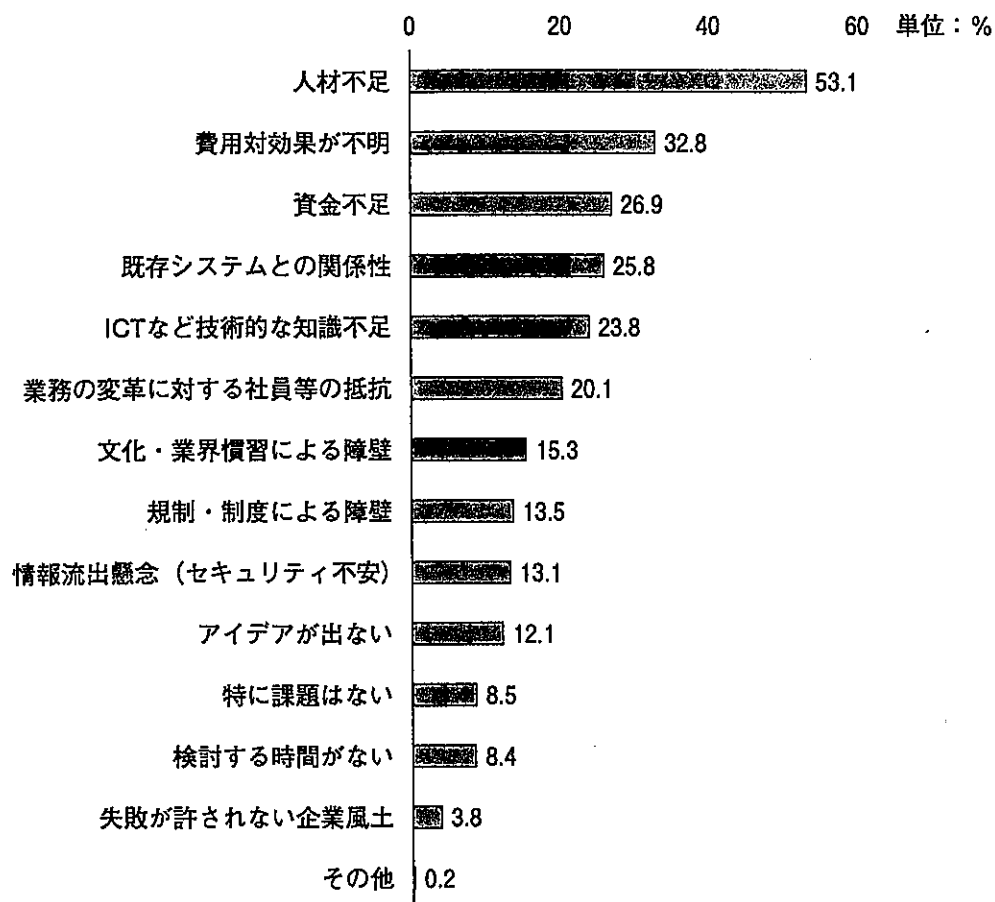
図1 業種別のICT投資額推移



注1：総務省「IoT時代におけるICT経済の諸課題に関する調査研究」（平成29年）における集計データより作成。

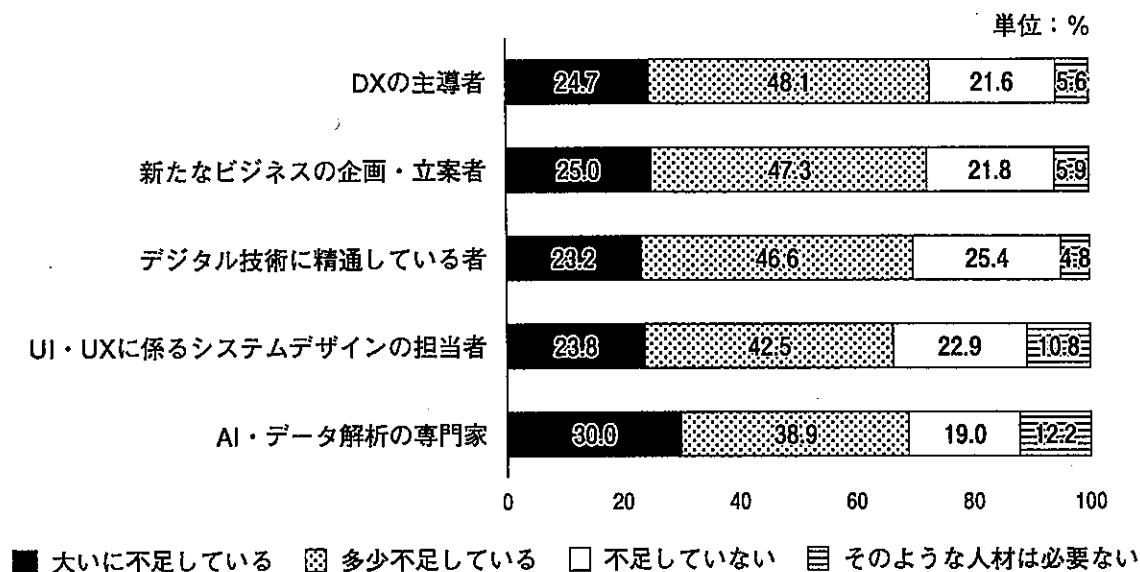
注2：ここでは電気通信投入額、情報サービス投入額、インターネット附随サービス投入額をICT投資額と定義し、1995～2011年までの産業連関表を基に業種別にその推移を示す。

図2 デジタル・トランスフォーメーションを進める際の課題



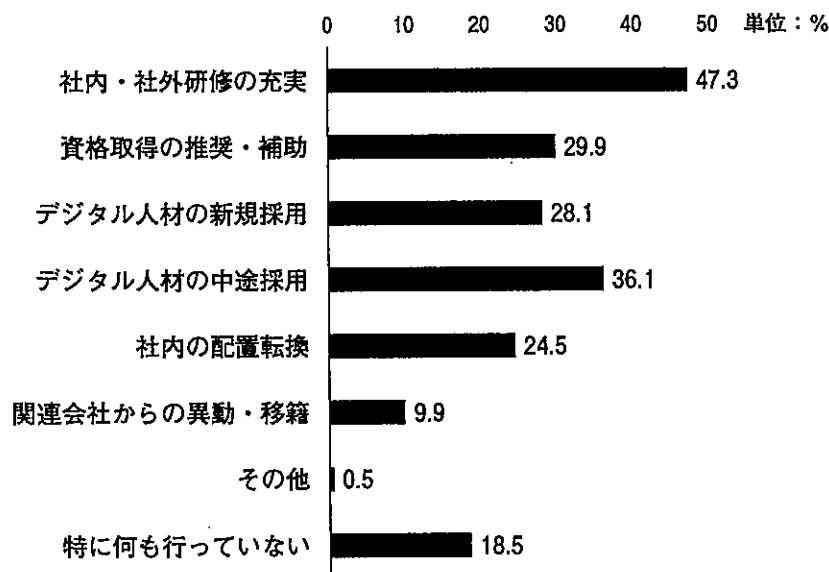
注1：回答者は2021年2月に調査会社が保有するモニターの中から、製造業、情報通信業、エネルギー・インフラ、商業、サービス業・その他の産業に就業中で、日本に本社を置き、従業員が10名以上の企業に勤める者（ただし、経営者や役員、フルタイム勤務者に限る）を抽出。有効回答数は1,068。

図3 デジタル・トランスフォーメーションの推進にあたって不足している人材



注1：DXはデジタル・トランスフォーメーションの略語。UIはユーザー・インターフェースの略称で一般的に利用者と製品やサービスとのインターフェース（接点）全てのことを意味する。UXはユーザー・エクスペリエンスの略語で利用者体験を意味する。

図4 デジタル人材の確保・育成に向けた取組



(出典) 図1は総務省「平成29年版情報通信白書」、表1並びに図2～図4は総務省「令和3年版情報通信白書」を基に作成した。ただし、出題の都合上、一部改変した。

(余  
白)

三 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)



(著作権の関係で不掲載)

(出典) トム・ニコルズ(高里ひろ訳)『専門知は、もういらぬのか 無知礼賛と民主主義』みすず書房、二〇一九年。

ただし、出題の都合上、原文を一部改変した。

問一 著者は、アメリカにおける「専門知の死」とはどのような状況で、それにはどういった危険があると考えていますか。著者の見解をまとめなさい。(三〇〇字以内)

〔四〇点〕

問二 政治や科学における「専門知」に関して、専門家と一般の人々はどのような関係にあるべきだとあなたは考えますか。日本の事例を示しながら、著者の見解をもとに、あなた自身の考えを述べなさい。(七〇〇字以内)

〔一一〇点〕